

事業所名: うめだ「子供の家」

令和5年度
福祉サービス第三者評価
評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 29日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 104-0061

所在地 東京都中央区銀座6-6-1銀座風月堂ビル5F

評価機関名 合同会社 福祉経営情報サービス

認証評価機関番号

機構 07 - 17

電話番号 03-5537-7750

代表者氏名 渡邊廣貴



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	川邊明美	福祉	H2001044
	②	赤羽恵	福祉	H1801014
	③	渡邊廣貴	経営	H0403033
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	うめだ「子供の家」			
事業所連絡先	〒	123-0851		
	所在地	東京都足立区梅田7丁目19番23号		
	TEL	03-3889-8800		
事業所代表者氏名	廣岡和明			
契約日	2024年 1月 8日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 1月 9日			
利用者調査結果報告日	2024年 2月 22日			
自己評価の調査票配付日	2024年 1月 9日			
自己評価結果報告日	2024年 2月 22日			
訪問調査日	2024年 2月 29日			
評価合議日	2024年 3月 22日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業評価: ・経営層記入事項について、課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り、現状の把握に努めた。 ・訪問調査ではサービス担当者による現場視察を午前中の時間に行い、サービス提供場面を極力把握する事に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 3月 29日

事業者代表者氏名

社会福祉法人からしだね
うめだ「子供の家」

代表者 廣岡和明



調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数:131 家庭数:110
調査方法	・調査項目:東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠。 ・事業所への報告:自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。
利用者総数	131
利用者家族総数(世帯)	110
共通評価項目による調査対象者数	110
共通評価項目による調査の有効回答者数	77
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	70.0

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が回答の29%、「満足」が53%、「どちらともいえない」が12%、「不満」5%、「大変不満」1%(1件)であり、回答者の82%が「大変満足」「満足」のいずれかを選択している。
 総合感想の自由記述では、「毎日、子どもに温かく接していただき、また見守っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。」「暖かく見守りながら保育をしてくださり、本当に感謝しています。」など、園や職員に対する謝辞が見られた。そのほか、「子供を尊重してくれる良い保育園だと思います。」「縦割り保育が子どもにはあっていると思う。子ども同士で学んでいることが多くあるように感じる。」等、保育実施面を評価する回答があった。意見や要望としては職員の連携や対応、対応の柔軟性など運営・方針、園からの子どもの様子の報告・連絡、降園時間が限定的である事などに関し意見や要望が見られている。
 個別の設問では、すべての設問の自由意見欄にコメントが得られており、特に問4, 7, 8, 10では多くのコメントが得られている。なお、以下の項目別コメントにある選択肢の回答率については「無回答・非該当」を除いた数値を参照して掲載している。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	70	7	0	0
回答の91%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄には「友達との関わり方や、体を動かすと楽しいこと、言葉など、いろいろなことを学んでいます。」「とてもよく見てくれて子供の発達によく対応してくれていると思う。」「モンテッソーリ教育は自身で選んだ遊びを行うというポリシーの元、自主性を引き出しながら学ぶことができていると思います。」などの回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	66	7	0	4
回答の90%が「はい」を選択している。この設問の自由回答欄には「世界の勉強や、刺繍、英語など、とても良い経験をしている」という内容の回答のほか、「工作が大好きになりました。」という回答、「季節の行事実施時にはその成り立ちや込められた思いを子どもに伝え、意味を理解した上で作品作りや行事を楽しんでいると思う」という内容の回答などがあつた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	66	6	0	5
回答の92%が「はい」を選択している。この設問では、「いろいろなテーマの献立がでてくるので、子供が楽しみにしている。」「栄養バランスを考えて提供して下さるので、とても助かっています。」という回答や、バランスが良いだけでなく、お子さんがおいしく食べている様子であることを伝える回答、お子さんが「おいしい」「〇〇が出て全部食べたよ」と伝えてくれる旨の回答などがあつた。				

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)キリスト教精神を基調とする保育。 誰もが例外なく、大切にされている存在であること感じられるような雰囲気の中で、自己信頼感と他者を敬う心を育てる。 2)モンテッソーリ教育法に基づいた保育。 3)日常的、組織的な発達支援を行う。 4)家庭との連携を密に取りながら、家族が子育てを楽しめるように支援し、家庭が子どもの育ちにとってより豊かな環境となるようにする。 5)関係機関とネットワークを組み合わせながら、地域の子育て機能を高め、子どもの育ちと子育てを支える地域環境づくりに寄与していく。</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会人として常識ある行動(マナー、コミュニケーションの取り方等)や常識ある物の考え方ができ、職務において自主性や責任感を持ち、保育に対し社会的な使命感を持っていることが必要です。 会議や行事を実施する上では、上司、同僚の意見を聞きながら自主的に自分の意見を伝え、協調し合える人間関係が作れることが大切です。 また、情報の共有化は大変重要なことであり、『報告・連絡・相談』は、職務を行う上で欠かせないことであり、クラス内は勿論のこと朝礼や会議で皆へ周知するように努めること、特に保護者からの苦情や事故等の情報は必ず早めに園長や上司に報告することが求められます。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>①保育親や保育に取り組む姿勢 子どもの最善の利益を第一に考え、子どもを心から尊重し、一人ひとりの個性や発達を考慮して保育に努めることが必要です。常に子どもの状況を把握し観察力と広い視野を持って保育ができることが大切です。また、人的・物的(環境)面に、子どもが心身共に自立できるように援助をしていく保育者を求めています。</p> <p>②家庭支援、地域支援 保護者が安心して子どもを預けたいと思えるような暖かい受け答えや挨拶を行ない、保護者の気持ちを汲み取り、共に支え合う関係にしていきたいと考えます。専門的な援助技術を学び、地域との交流を行ないながら、広い視野を持って保育園の役割を捉え、支援に携っていくことが大切です。</p> <p>③保育の質の向上 保育の基本的知識を基盤にし、発達・心理面・発達支援・保健衛生等のほか、特に園の保育の根幹であるモンテッソーリ教育についての学びは保育士一人ひとりが必須です。研修や自己研鑽により保育の専門性を高めることに労力を惜しまず、主体的に向上しようとする意思や根気強さが求められています。</p>

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	49	18	9	1
<p>回答の64%が「はい」を選択している。この設問では「季節の行事を大切にしてくれて、植物を育てたり落ち葉集め等、対応してくれている。」「植物や昆虫等、家庭では育てられないものに触れさせてもらっている。」「欲を言えば、他の公園や散歩など、園外活動がもう少しあると嬉しい。」「戸外遊びは園庭が多いので、近くの公園や散歩など外出する機会があると良いと思う。」などの回答があった。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	9	4	14
<p>回答の79%が「はい」を選択している。この設問では「連絡を入れることを前提にいつも快く対応してくれます。」「最終的には対応してくれるが先生によって態度が違う。」等の回答のほか、早退時間やお迎えの時間の柔軟性がない旨の回答が見られた。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	57	14	5	1
<p>回答の75%が「はい」を選択している。この設問では「問題が発生した場合は、経緯を報告し、原因分析、再発防止策を明記し保護者へ案内がある。」「出入り口に見守りする人を配置したり、建造物の改装をしたり、ヒヤリハットの共有等もありよく対策していると思う。」という回答などのほか、設備面の危険性を心配する意見や、見守りの体制等に関する意見が見られた。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	42	26	8	1
<p>回答の55%が「はい」を選択している。この設問では平日の行事や土曜日の行事に関する様々な意見があったほか、保育参観の日程の決め方や、日程の提示をする時期が遅い、兄弟がいる場合の調整がしづらい、等の回答が見られた。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	46	22	8	1
<p>回答の61%が「はい」を選択している。この設問では「どの先生も話を受け止めてくれる」という回答や「コロナ明けから帰りの時間に話せるようになった。園での出来事も教えてくれ、問題があった時もよく相談に乗ってもらえる」旨の回答があった。一方、「あまり会話する機会がない。」「担任となかなか時間をとって話す機会がない。(幼児クラスは)連絡帳などもないので、普段の様子も分かりづらい。」「信頼関係はあるが、送迎時は慌ただしく十分に話にはできない」等の回答があった。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	73	2	2	0
<p>回答の95%が「はい」を選択している。この設問では「いつも掃除が行き届いていてきれいだと感じる。」「送迎時に入れる場所は整理されている。クラス内は立ち入れないので分からない。」「コロナがあってから園の室内に入ることが制限されているので前よりは判断がつかない。」という回答のほか、「子供の靴下に砂があり、砂場遊び後は園内もあちこちにあると考えられる」旨の回答などがあった。</p>				
10. 職員の待遇・態度は適切か	58	14	5	0
<p>回答の75%が「はい」を選択している。この設問では「もっと個人的でも良いと思います。」「中には話しかけづらい、厳しい話し方をなさる先生もいらっしゃいますが、子供たちにとっては良い存在だと思います。」という回答のほか、職員の態度、服装、言葉遣いや挨拶、子どもへの言葉がけや接し方についての意見が散見されている。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	65	8	3	1
<p>回答の86%が「はい」を選択している。この設問では「膝をすりむいたくらいでも、洗ったり絆創膏をしていただいたり、丁寧すぎる対応です。」「熱が出た時も迎えに行くまで様子を見て対応して頂けました。怪我の時も看護師さんに見て頂き安心出来ました。」「すぐに連絡をくれるのでありがたい。ただもう少し、お迎えまでの時間に猶予をいただけると助かる。」などの回答があった。一方、「報告がない」という回答も見られた。そのほか、感染症流行時の症状の判断に関する意見もあった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	43	14	6	14
<p>回答の68%が「はい」を選択している。この設問では、「言葉の暴力やお友達との関わり方についてももう少し先生方のご指導をいただけたらととてもありがたい。」という回答のほか、「噛んだ噛まれたが多い」「目が行き届いていない」旨の回答などがあり、園の対応に関する意見もあった。また、「しっかりと見守り、対策を立てて保育をしてほしい」旨の回答などがあった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	61	11	3	2
<p>回答の81%が「はい」を選択している。この設問では「気持ちをよく見てくれています。」という回答のほか、子どもに対する職員の対応に関する意見が見られた。「先生によると思う。」という意見もあった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	59	8	2	8
<p>回答の86%が「はい」を選択している。この設問では「勝手に話したりせず、十分に守って頂いてる事がわかりました。」という回答のほか、一部の職員が守秘義務を守っていない旨の意見が見られた。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	55	16	4	2
<p>回答の73%が「はい」を選択している。この設問では「あまり先生と話す機会がないが、連絡帳でモンテッソーリの活動を説明してくれて助かる。」という回答のほか、「一部の職員以外はとてわかりやすいし、こちらからも聞きやすい」旨の回答などがあった。そのほか、「ほとんど説明がない。」「普段の様子がほとんどわからない。」という回答などがあった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	50	15	5	7
<p>回答の71%が「はい」を選択している。この設問では「担任と話が通じなくても、主任が丁寧に対応してくれて助かる事がある」旨の回答などがあった。そのほか、「職員による」「園側の都合が多い」「職員同士の情報の共有ができていない」などの回答があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	39	9	8	21
<p>回答の70%が「はい」を選択している。この設問では年度当初に配布される書類に記載がある旨の回答が複数あった。また、「何処に相談すれば良いのか教えて頂き、助かりました。」という回答などがあった。また、第三者委員の助言のあり方についての意見が見られた。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	評点(〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	○非該当	
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえ、意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	○非該当	
	カテゴリー1の講評	
	<p>理念や基本方針を職員が理解する機会をつくり、職員の自覚と啓発を促している</p> <p>キリスト教精神を基調とし、モンテッソーリ教育法に基づいた保育を実践する園の理念は、パンフレットや入園のしおり等の案内物に記載されている。毎年、職員に配布する「保育園職務の基本マニュアル」の冒頭に園の理念、使命を記載し、4月末に開催する法人研修で全職員に理念が伝えられている。また、人事評価で使用する業務目標・成果シートに各自が理念に沿った取り組みを記載する。園内研修で基本理念を確認する、等により職員への理念の浸透が図られている。保護者には入園時の面接で園の理念やモンテッソーリ教育について伝えられている。</p> <p>方針や計画、重点項目を職員に示し、業務分掌を明確にしてアクションにつなげている</p> <p>「保育園職務の基本マニュアル」に保育方針・保育目標、環境分析と中期計画、事業計画を記載して年度当初に職員に示している。また、定期で開催されている会議に園長と主任が出席してビジョンを具体的に職員に周知し、園の職員として個々の職員が使命感を持って業務を遂行できるよう促している。モンテッソーリ教育や年齢別保育の充実、保育環境の見直し等の保育実施面や職員の育成、経営・設備など、当年度の重点項目についても年度当初に職員に周知され、主任・リーダーの業務や委員会・係の業務分掌を明確にして具体的なアクションにつなげている。</p> <p>理想とする保育園に向け、職員参加で検討していく取り組みを準備中である</p> <p>常務会、理事会で決定した重要案件については、職員会議や主任会議で職員に報告している。保護者にはクラス懇談会や保護者面談、毎月発行する「園からのお知らせ」にて重要な決定事項を保護者に周知している。園内の意思決定については、会議体を定めてプロセスを明確にしている。</p> <p>園の理念や基本方針については、時代の要請に基づき理想とする保育園に向け職員の参加型で意見を出し合い、集約したものが理念と一致していることが大切と考え、曼荼羅チャートを使った園の理念や方針の具体化について準備を進めている。</p>	

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>アンケート等により、職員や保護者の意向把握に努めている</p> <p>3年に一度の第三者評価で実施する利用者調査の結果を改善に活かしている。また、保育参観や行事後のアンケートで保護者の意見を把握しており、得られた意見や要望については「保育サービスあり方検討会」の議題として現状と問題を検討して、毎月の園だよりに要望に対する具体的な対策を掲載し保護者に周知している。職員の意向は、非常勤職員については年度末に実施するアンケートの中で意見があれば記入してもらい、常勤職員については業務目標成果シート記入時や個別面談時に意見や希望を伝えてもらい把握している。</p> <p>地域ネットワークの中で情報収集と地域課題の解決に向けたアプローチがされている</p> <p>地域の福祉動向やニーズについては足立区の民間保育園連合会の各種研修や幼保小連携会議、子育てネットワーク連絡会、医療的ケア児ネットワーク協議会への参加等で得られている。園長が役員の要職を務めている足立区民間保育園連合会のネットワークでは社会福祉動向の研究や行政機関の会合への参加をしており、また、足立区で発足した医療的ケア児ネットワークでは発達支援の先駆的な園として意見を伝えている等、利用者の多様なニーズや育児不安に応えるべく地域内で連携して取り組んでいる。</p> <p>事業運営や保育の重点項目を各部署が担当して課題の解決に取り組んでいる</p> <p>園を取り巻く内外の環境を分析し、中期の事業計画を作成して毎年見直している。また、サービス面については「保育サービス在り方検討会」が現状分析を行い事業計画に反映している。単年度の事業計画は中期事業計画を年度に展開して作成しており、中期事業計画と年度の重点事業項目、保育の重点項目を記載して職員に示している。実行を担当する各部署では目標を掲げ、例えばHACCPに準じた衛生管理等、各課題に取り組んでいる。各部署の計画案は「クラス部署会議」で確認して決定されており、半期毎に達成度を確認し進捗を管理している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

マニュアルの読み合わせなどにより職員に倫理や心得、規範、人権などを伝えている

園内では職員に倫理要綱、職員倫理規程を明示している。また、サービスの心得等を記載した「職務の基本マニュアル」の読み合わせを行うなどで、理念や行動規範、人権等について学んでもらっており、社会人として、保育園職員としての遵守事項等を職員に伝えている。「職務の基本マニュアル」は常勤職員、非常勤職員ともに所持しており、そのほかに職員用の連絡アプリで共有して、いつでも目を通せる状態にしている。

保護者の要望や苦情には真摯に丁寧に取り組み、円満な解決が図られている

苦情解決の仕組みは入園のしおりに詳しく記載され、第三者委員の連絡先も周知している。また、第三者委員とは毎年1回連絡・報告会を実施しており、苦情を委員会に伝える仕組みがある。保護者からの要望や苦情はアンケートなどで積極的に収集し、苦情があったときは内容や状況を把握し、「保育サービス在り方検討会」が問題の検証を徹底して、保護者と話し合い事実を明らかにして対策を徹底することに取り組み円満に解決することに取り組んでいる。

空手クラブや子育て支援講座、発達支援センターとの連携などで地域に貢献している

地域活動として実施しているキッズ空手クラブには、卒園児や地域の小学生が参加している。また、長年開催している地域の子育て支援講座「すくすく」では地域の保護者向けに近隣病院の医師による感染症の講座などが開催されている。そのほか、法人として「子ども食堂」を公益事業として運営している。姉妹施設であるうめだ・あけぼの学園(児童発達支援センター)とは支援が必要な子どもを取りこぼさずに適切な機関につなぐための連携(AKネット)やインクルーシブ保育の実践による連携がされている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>安全計画に基づき各種マニュアルを見直し、最新情報を収集して安全性を高めている</p> <p>園の安全計画に基づき、優先順位をつけて各種事故防止マニュアルや感染症対策マニュアルの作成や見直しを行い、見直し後のマニュアルについては職員用アプリで共有している。重大事故防止や感染症対策については、必要な研修を受講して最新の情報をもとに対策を施している。また、区から通知される事故事例については毎月会議で情報共有をしている。事業継続計画(BCP)が策定されており、防災組織の編成、災害発生時の初動対応、勤務時間内対応、災害時の提供メニュー、ライフラインの連絡先、通常業務再開に向けた対策等を定めている。</p> <p>現場で安全を確保できるよう各種訓練を実施し、事故予防では事例を検討し対策している</p> <p>避難訓練は安全計画と連動して計画され実施されている。避難訓練は地震、火災、水害を想定して毎月実施され、地震では非常放送に合わせてシェイクアウト訓練を実施し、災害時において子どもと職員が適切に行動できるよう取り組んでいる。水害については水防計画が策定されている。防犯では不審者対応訓練を実施するほか、視覚教材も用いて子ども達に伝えている。事故防止では事故簿の作成をし会議等で全職員で周知再発防止に努めている。また、ヒヤリハットを収集しており、提出があったときは会議で速やかに共有して事故の予防に取り組んでいる。</p> <p>個人情報を厳格に管理し、IGTを積極的に活用して情報を共有し活用している</p> <p>個人情報保護については職務の基本マニュアルに記載し、職員に周知し遵守を徹底している。重要な書類は鍵のかかる場所に保管し、各クラスの個人情報は各クラスで安全に保管している。また、実習生の情報は学校に返送する等、個人情報を厳格に管理している。電子データはサーバーで管理し、LANにより情報の一元化がされている。保育計画などの保育業務や登降園管理などの事務はIGT化されており、データにはアクセス権を設定し、端末にはパスワードを設定して情報の保護と共有がされている。また、保護者、職員の連絡にはアプリを活用している。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

人材確保に注力し、キャリアパスと人事制度に基づき人材育成をしている

モンテッソーリ教育の特長があり、勉強したい人や意欲ある人材を採用しやすい園であるが、ウェブページやウェブページと連動する求人サイト、ハローワークなどを通して年間を通じて人材募集をおこない、また、就職支度金制度や借り上げ社宅制度を整備して人材の確保に注力している。人材育成ではキャリアパスと等級別に習得が必要な事項を研修項目として明示し、業務目標制度や人事考課制度を運用して継続的な人材育成をしている。また、業務目標・成果シートをもとに園長が年2回の職員面接を行い、本人の希望や適性を確認し配置の参考にしている。

キャリアパスに沿った園の研修計画にもとづき、職員個々の研修計画が作成されている

人材育成の基本方針と計画を定めて職員に周知されている。研修についてはキャリアアップ研修をキャリアパスに組み込み、キャリアアップ研修との連動性を高めた研修計画が作成されており、今後は園の保育の軸であるモンテッソーリ教育についてもキャリアパスに組み入れて人材育成の体系を構築していく意向がある。職員個々の研修は園の研修計画に基づき設定されており、個々のキャリアに応じた研修受講がされている。外部研修では区の研修や関係機関の研修などを受講しており、法人研修等と併せ、個々に年間4～5回程度の受講実績がある。

職員が意欲的に学べる環境があり、設定した目標の達成に向けチームで取り組んでいる

モンテッソーリ教員養成コースの受講希望がある人は時間を調整して受講してもらっており、調査時点で修了者が10名以上勤務している。就業環境については、休憩室の環境整備のほか、公平な勤務シフトを心掛け、月に1日ノー残業デーを設ける、急な休みにも柔軟に対応する等で働きやすい職場環境づくりに努めている。

部署ごとに業務目標を設定し、月1回のミーティングにより、クラス・部署内での目標の進捗状況や問題点や課題について検討している。今年度は特に給食室での調理工程表・手順書の作成を行うなどの業務改善が達成されている。

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>発達支援は地域資源の活用が不可欠であり、加えてそれに対する職員一人ひとりの知識や経験のアップデートが必要である。そのため、発達支援児とその家族に対し、うめだ・あけぼの学園や区の関係機関(げんき、あしすと等)、保育所等訪問支援との連携の下に、個々に応じた支援を早期から一貫して行っていき事、また民間の療育機関を利用している家庭についても療育内容や様子を聞き圖での支援にも取り入れる事を目標とした。</p> <p>2022年度の取り組みとしては、うめだ「子供の家」で定期的開催している発達支援委員会において、定期的発達支援に関する勉強会や研修を実施そのフィードバックをおこなった。「発達支援シート」「園生活支援シート」の記入方法を学び、保育実践に活かせるように指導を行い、各職員の発達支援制度や療育に関する知識・経験がの充足に努めた。</p> <p>結果として、書類の作成や「発達支援シート」「園生活支援シート」の活用は主担任レベルで浸透できた。療育機関を利用している場合の療育内容の共有や療育機関との連携については課題が残った。次年度は発達支援のフローを完成させて各種療育機関との地域連携を具体的に進める仕組みを作り上げる予定である。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>発達支援の取り組みは職員一人ひとりの専門性を高めることと、組織的連携力を高めることが大切であるという考えのもと、連携の体制づくりと職員の専門性向上に取り組んでいる。「発達支援時とその家族への支援」は事業計画に記載され、計画的に実行されている。職員の専門性向上については、発達支援関係の研修受講を勧め発達支援コーディネーターを定着させる事を継続し、連携については、途切れの無い支援を展開する事を目的として要支援児の現状把握と今後の方針を明確にするための発達支援フローシートを2023年度に作成している。前年度の取り組みを振り返り、地域が連携して支援にあたる仕組みづくりに継続的かつ意欲的に、使命感を持って取り組んでいる。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員が記録や計画作成に費やす時間には制限があるため、簡略化と作業時間の短縮を目標として取り組んだ。
 具体的には現在使用している保育業務支援ソフトを活用しながら、年齢別の年間指導計画や年間食育計画は別途作成することや、保育関連記録や文書作成にかかる職員の業務負担の軽減を目指して業務改善に取り組んだ。保育業務支援ソフトの入力内容についてはクラス間に相違が無いように会議で記載内容の見直しを行い、年齢別の年間指導計画と食育計画は表計算ソフトを用いて作成した。
 結果として、保育記録関連は業務支援ソフトを使用し記録を一本化できた。また、縦割り保育の年間指導計画だけではなく、年齢別の年間指導計画も表計算ソフトで作成し活用が開始された。そのことにより、年齢別の横割り活動は年齢別カリキュラムに沿って実施できることになった。また、記録の記載内容の見直しにより、PDCAを意識した記録ができていた。そのほか、会議録については記載内容の充実を図り、PC入力で書式を統一した等、多方面で成果があった。今後は、行政より通知のあった保育士等業務省力化に基づき、保育計画や記録作成のあり方を見直していく事を検討している。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

保育計画、年齢別保育計画の作成については事業計画に記載して着実に実行されており、記録と計画について、PDCAが回るよう質の向上と標準化を進め、業務負担を軽減し業務効率を高めている。また、保育士業務の省力化という社会的な要請を踏まえて、今後も記録・計画についてのあり方を見直すことを方針として、ICTを活用している。2023年度は保護者への情報連絡アプリを活用し、園からの発信文書は原則として配信し、ペーパーレス化を推進し、また、職員間の連絡についてもアプリを活用し、迅速な連絡と情報共有をしている。事務仕事の業務負担については、職員からの意見もまだあるため、引き続き効率化の取り組みを期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(0000)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>園のウェブページには入園を検討している保護者が知りたい情報が詳しく掲載されている</p> <p>園のウェブページでは、園の概要や年間行事、1日の流れ、保護者へのお知らせなどがわかりやすく案内されており、実践しているモンテッソーリ教育に基づく園の特色については詳しい説明を読むことができる。また、ブログ記事には、モンテッソーリ教育の実践の様子や、活動している子どもの姿などを掲載し、保育の様子が写真と文章でわかりやすく伝えられている。そのほか、ウェブページには入園に関するQ&Aや持ち物の一覧表を掲載しており、入園を検討する保護者の参考になる情報が提供されている。</p> <p>うめだ・あけぼの学園と連携してインクルーシブ保育の案内なども実施している</p> <p>ウェブページでは、第三者評価で実施した利用者調査の結果や受け付けた苦情、財務情報などを公開しており、園の運営面や保護者満足度なども知ることができる。また、園の情報は区に提供しており、区の子育てに関するウェブサイト内にある認可保育園の案内ページから園の概要を知ることができる。発達支援児の受け入れについては発達支援センターのうめだ・あけぼの学園と連携し、実施しているインクルーシブ保育(いんくる保育)の見学案内等も実施しており、発達支援が必要な子どもと家庭のニーズに応える対応がされている。</p> <p>見学案内では異年齢保育やモンテッソーリ教育等、園の特長を丁寧に説明している</p> <p>見学希望者には30分から40分の時間をかけて案内をしている。案内時は縦割りクラスで異年齢保育を実施していることや、個別的な保育であり、モンテッソーリ教育を中心に活動をしていることなど、保育の特長を丁寧に伝えている。見学者の中でモンテッソーリ教育を知らない人は少なく、モンテッソーリ教育を実践している保育園を探している保護者や発達支援のニーズがある保護者も多いため、それぞれのニーズを踏まえた説明をすることになっている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園時には個別に入園説明と面接を行い、細やかに子どもの状況を聞き取っている</p> <p>入園時は園のしおりに沿って入園説明を行い、その中で生じた保護者の疑問などに答えたり、意向を確認し保護者が安心して入園出来るよう配慮している。入園時には嘱託医の健康診断と併せ発達チェック面談も実施している。面談では園で用意している質問票に沿って入園前の過ごし方などを確認し、0歳児は睡眠時の癖や眠る姿勢、1、2歳児はアレルギーについて、4、5歳児では前園での様子など、入園する子どもの年齢に応じてポイントを抑え詳細な聞き取りを実施している。聞き取った内容は職員間で共有し保育開始時の配慮事項として役立てている。</p> <p>子どもの様子に合わせ無理なく園生活に慣れるよう配慮している</p> <p>子どもが新たな環境に無理なく馴染めるよう初日は2時間ぐらいから登園をスタートさせ、徐々に登園時間を延ばしている。水分が取れているか、ご飯が食べられているかなどを目安に子どもの様子を確認し、保護者の状況も加味して慣らし保育を進めている。入園して間もなくは受け入れた職員がなるべく側について過ごしたり、子どもが持っていると落ち着く物を保護者から預かり持たせてあげるなど安心して過ごせるようにしている。慣らし保育時に連絡帳の記入が難しい時には口頭で子どもの様子を伝える等、保護者が安心できるよう配慮している。</p> <p>就学や転園を控えた園児には保護者面談を実施して不安の解消に取り組んでいる</p> <p>年長児の懇談会では小学校就学に向けた説明を行い、個人面談では就学に向け個人目標を伝えるなど、就学を意識した取り組みを実施している。就学や転園にあたり、保護者から希望があれば随時個別面談を実施したり、日々のやり取りの中で心配な様子が見られる保護者には園から声をかけて話をするなど、保護者の不安解消に努めている。また、就学先や転園先に伝えたいことがあれば相手先に伝えるなど、子ども達が新たな環境で円滑に過ごせるよう配慮している。法人で開催しているお祭りには卒園児が多く集まり卒後のつながりを持つことができている。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
各計画は計画期毎に子どもの様子や保育の振り返りが実施されている 子どもの情報は、児童票や個人別健康記録票などに記録されている。日々の子どもの様子は保育日誌に記録し、毎日の評価・反省を行い、また、活動は週単位で計画されている。個別指導計画は毎月クラスで話し合って見直しを行い、園長、主任が確認している。また、緊急に見直しを行う場合の手順も定めている。年間指導計画や月案、週案、個別月案などの計画類や日誌、個別の発達チェックなどの記録は保育支援システムやPCソフトに入力し管理しており、職員間で共有されている。			
縦割り保育を行う中で年齢を意識した活動を行うなど細かな計画が立てられている 保育の全体的な計画は職員全員で話し合って作成し、見直しも職員皆で実施している。年間指導計画は毎年度の全体計画に基づき作成されている。0歳児はクラスで、1・2歳児と3歳以上児はそれぞれ縦割りのクラス編成であるため異年齢の保育計画が立てられている。また縦割り保育の中で、年齢毎の発達を考慮した活動も実施しているため、年齢別保育指導計画も作成し、計画に沿った保育が実践されている。年長児は5歳児として就学に向けた年間指導計画と活動計画を作成して、小学校入学に向けた準備が計画的に実施されている。			
各会議で保育を振り返り、子どもの姿や連絡事項を共有している 園では毎日の朝礼で日々の子どもの様子や連絡事項を共有している。また、クラスミーティング、主担任会議、クラス連絡会議、発達支援委員会、ケース研究などの会議を行い、週や月単位で保育実践面を振り返り、子どもの姿を共有している。そのほか、給食委員会、衛生委員会、離乳食会議、アレルギー会議などの各会議で各テーマについて話し合い、情報共有がされている。議事録は全部署に配布して全職員が内容を確認している。会議には園長や主任も参加し、全体の把握をしている。			

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どものプライバシーに配慮し、子ども自身が気を付けられるよう援助している</p> <p>プールやシャワー時の着替え時には間仕切りで空間を仕切ったり、おむつ替えの時にも周囲を仕切りで囲い保育者と1対1で行うなど、子どものプライバシーに配慮した環境をつくっている。また、嘔吐してしまった時には感染予防と同時に、子ども本人の気持ちを考慮して他の子ども達を別室に移動している。着替えの際は全裸にならないよう着替えの順番を伝える等、子どもが自分自身のプライバシーを守れるように習慣づけている。</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちに丁寧に向き合っている</p> <p>子どもの人権への配慮は倫理規程や「保育園職務の基本マニュアル」で明示し保育士会などで話し合い具体的な保育内容に反映している。また、モンテッソーリ教育の方針の中にも「子どもは一人ひとりちがう」事が謳われており、職員の研修の折に話している。例えば赤ちゃんを抱っこする時にはいきなりではなく声をかけてから抱っこする事や、子どもの要望に応じられない時はその理由を説明するなど、一人ひとり細やかに対応することができるよう職員に伝えている。</p> <p>育児困難家庭の支援では関係機関と連携をする体制がある</p> <p>虐待防止については、年に1回は職員が外部研修に参加し会議で報告を行い、最新の情報や防止のための知識を共有できるようにしている。育児困難家庭のケースは、区の子育て支援センターや児童相談所と連携をとる体制がある。配慮が必要な子どもや家庭の場合は、発達支援委員会にかけて、うめだ・あけぼの学園の心理職員等専門スタッフの観察やアドバイスを受けられるようにしている。</p>		

サブカテゴリ6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <input type="radio"/>非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリ6の講評	
<p>各種マニュアルを整備して活用しており、優先度に応じ適宜の改定をしている</p> <p>職員倫理規程や保育園職務の基本マニュアル、保育業務マニュアル等、各マニュアルを整備して基本的な考え方や業務手順などを明確にしており、各部署において参照され活用されている。日常業務のマニュアルは年に一度、年度末に職員全体で見直し改定しており、他のマニュアルも随時見直している。新型コロナウイルス感染症対策については対応方法が変更される都度改定し、非常勤職員を含め全員に配布、周知して統一した対応がされている等、重要度や緊急度を鑑みて見直し、改定がされている。</p> <p>リスクの低減に向けた改善や保護者意見を踏まえた改善が実施されている</p> <p>日々保育の中で、インシデントやトラブルがあったときは、主担任会議で防止策を検討し見直しを実施している。また、登降園時等、日常の中で得られる保護者からの意見や、個別面談、保育参観の感想からの意見は、「保育サービスあり方検討会」にて内容を検討し必要に応じて改善策を講じている。例えば、コロナ禍の時の、夕方の消毒をする時間帯のテレビ視聴や、密を避ける食事時の座席配置などは、保護者からの意見を受け、「保育サービスあり方研究会」で検討して変更する等、保護者からの意見を踏まえた改善が行われている。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
			36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもが主体的に行動ができるよう環境が整えられている</p> <p>モンテッソーリ教育を実践しており、発達段階に応じた教材や教具を子どもが出し入れができる棚に用意し、自分で遊びを選び、繰り返し遊べるよう環境を整えている。どのクラスの子も達も部屋に用意されたラグを自ら敷き、遊ぶ場所を自分で確保している。ラグを敷くことで手首の発達を促したり、ラグの上に教具を並べて空間を認識するなど、さまざまなことが自然に身につくよう考えられている。教具や玩具を置いている棚は常にきれいに整頓され、子ども達が使ったものを元通りに戻す姿があり、物を大切に使う心が育まれているように推察された。</p> <p>一人ひとりの個性を尊重し子どもへの関わり方を話し合い保育をしている</p> <p>子ども同士のトラブルについては事例を基にケース研究をおこなっている。気にかけていくべき子どもについてクラスで方針を立て、保育を実践し、結果を振り返っている。ケース研究のほか、クラスミーティングでも話し合う機会を設け、人的環境や物的環境の見直しなどを行っている。特別な配慮が必要な子どもについてはクラスの代表が参加する発達支援委員会を月に2回実施し、情報を共有して支援について話し合い、系列園のあけぼの学園からもアドバイスを得てより良い支援が行えるよう努めている。</p> <p>年度末には就学や進級後の生活が円滑に送れるよう配慮がされている</p> <p>年度の後半には2歳児が幼児クラスと園庭で一緒に遊んだり、0歳児が1、2歳児の部屋に行って遊ぶなど進級を意識した活動を行い、子ども達が新しい環境に徐々に慣れるよう配慮がされている。小学校に就学する子どもには、幼保小ブロック会議において、各施設の職員間で情報交換を行い、また、図書館に行く体験や、小学校が開催している展示会に子ども達が行ったり、小学校の様子をDVDで視聴するなど、安心して小学校へ就学できるようにしている。小学校への引継ぎは保育園児重要録を提出するほか必要に応じて口頭で申し送りをおこなっている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>登降園時の視診や連絡帳でその日の子どもの様子を保護者と共有している</p> <p>日々の子どもの様子は2歳児までは保護者向けの保育支援システムを利用した連絡帳、3歳児以上は口頭で伝えている。朝の受け入れ時は登降園カードを確認し、視診をして気になることがあれば保護者に確認し日誌に記録して職員間で共有をしている。特に変わった様子が見られる時には降園時に直接伝え、それが難しい時には伝達カードを渡したり電話で伝えている。園児数が多いため全員の保護者と日々会話しすることは難しいが、活動の様子を写真で掲示したり、週に一度は保護者と会話し意識し子どもの様子を保護者に伝えることに努めている。</p> <p>基本的な生活習慣は個人面談で方針を伝え家庭と連携して支援している</p> <p>年に1回全園児の保護者と面談を行い、子どもの様子や課題などを保護者と共有している。トイレトレーニングは個々の発達に合わせて細やかに実施することや、子どもが成功体験をして自信をつけてもらいつつ徐々にトイレに誘うなど、園で実施している方法や配慮点を伝えている。4、5歳児には区で作成している「早寝・早起き・朝ご飯カレンダー」を家庭に配布して家庭でも実践してもらい、週に1回、園で確認し、また、毎日実施している「集まり」の中で子ども達に話をして、家庭と連携した生活習慣の支援をしている。</p> <p>年齢やその日の子どもの様子に応じて休息の長さや時間帯に配慮している</p> <p>午睡は年齢による体力の差や個々の体調、気候などにより、十分な休息がとれるよう配慮して実施している。5歳児は小学校就学を見据えて午睡を行っていない。4歳児の3学期から子どもの様子を見ながら午睡時間を徐々に短縮し、3月には午睡をなくすようにしている。午睡をなくした後も個々の様子に合わせて休息が必要な子どもには個別対応し仮眠をとってもらうこともある。また、午睡時間に眠れない子どもには、その時間が「休息をする時間」である事を伝え、横になったり静かな遊びをしてもらっている。</p>				
3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(000000)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている			○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている			○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている			○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している			○非該当
評価項目3の講評				
<p>0歳児から5歳までの遊びのつながりに配慮した環境を整えている</p> <p>年齢が大きな子ども達にいきなり難しい遊びや作業を教えるのではなく最終的にそれが行なえるように0歳児から遊びを積み重ねている。リング差から紐通し、ひも通しから縫いさし、縫いさしから刺繍へ等、年齢や発達段階に合わせ教具や玩具をそろえ、自由に使いじっくり遊べる環境を整えている。園では人的環境、物的環境を重要視して子ども達が自分で遊びを選びやすいように、分野ごとに教具や教材を棚に置いている。職員は子どもが自発的に環境に関われるように活動を紹介したり最小限の手助けを行うようにしている。</p> <p>集団活動の時間は、子どもの気持ちを汲み、主体的に参加できるよう配慮している</p> <p>毎日「集まりの時間」を設け、その中で話を聞くことや発表をする経験をしている。この時間はダンスやリトミックを行うなど、皆で何かをする楽しさを感じられる時間にもなっている。「集まり」に参加したくない子どもには参加したいと思えるような言葉がけや働きかけを行いつつ、時には別のことをするなど、保育者が傍につき臨機応変に対応している。制作活動も皆で同じものを作るのではなく、やりたくない子どもには共同作業の中の一工程に携わってもらうなど、子どもの気持ちに寄り添った対応をして、参加の仕方を工夫している。</p> <p>園庭での遊びを通して身体の発達が促されている</p> <p>晴れた日には毎日園庭に出て総合遊具やつり橋、鉄棒、縄跳びなどで身体を動かして遊んでいる。3歳未満児が三輪車や足り車で遊びやすいようコンクリート地面も用意されているなど、発達や遊びやすさを考慮した環境が整えられている。砂場ではままごとや山づくりなど、砂の感触を味わいながら遊びを楽しんでいる。コロナで園外保育を自粛していたが利用者アンケートで園外保育の機会が少ないという声が多くあり、コロナも落ち着いたので近隣の公園など散歩に出かける事も考えていきたいとのことであった。園外保育については今後に期待したい。</p>				

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日頃の遊びや活動を発表につなげ、日常の活動の延長で行事を実施している</p> <p>日常の保育でかけっこをしたり、名前を呼んで返事をする活動をそのまま運動遊び(運動会)で実施したり、毎日の集まりでおこなっている手遊びやダンス、クラスで読み聞かせている絵本を題材にした劇などを、わくわく子どもシアタータイム(発表会)でおこなうなど、日頃から親しんでいる遊びや活動を行事につなげている。また、七夕、ひな祭り、節分などの日本古来の行事も大切に考え、視覚教材で由来を伝えたり、行事にちなんだ制作活動を実施したり、行事食を提供するなど、行事に関連するさまざまな活動を通して興味を持てるようにしている。</p> <p>子ども達がアイデアを出し、話し合っって主体的に行事を進めている</p> <p>年長児の恒例行事である生誕劇では、役決めを子ども達が主体となり進めている。役決めではすべての役を全員の子どもが演じてみて、どの役をやりたいか、誰が良いかなどを子ども達が話し合いで決めている。小道具なども廃材選びから制作まで子ども達が考え、工夫しながら作成し、皆で劇を作り上げている。コロナ禍で遠足にいけなかった時には自分達で半被やお神輿を作って夏祭りを行うなど、子どもの発想から行事へと発展しみんなで協力しながら実施した。</p> <p>保護者には行事のねらいや内容を伝え、子ども達の取り組みの様子なども共有している</p> <p>行事は子ども達が楽しめる内容にするため毎回振り返りを行い、次年度に見直しをしている。保護者には園だよりなどで行事の案内と共にねらいも伝えている。また、写真の掲示、トピックス、個人のおたよりなどで行事に取り組む姿などを伝え、子どもの様子を共有している。運動遊びで行う組体操や劇のセリフなど、子どもの様子に不安がある時には状況を保護者に伝えて保護者からもフォローしてもらっている。また、行事終了後には保護者アンケートをとり、感想を共有し、スケジュールや配慮点、実施場所に対する意見などを次年度の参考にしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育では子どもの疲れに配慮して保育をしている</p> <p>午前中の保育スケジュールは自由活動の時間を十分にとり、自分のペースで過ごせるようにしている。夕方の延長保育はホールで行い、ブロックや絵本など遊びのコーナーを設けて過ごしている。子どもに疲れた様子が見られる時は絨毯や布団を敷き横になれる場所を設けたり、一人で静かに過ごしたい子どもには一人になれる空間を作る等、子ども一人ひとりの様子に合わせゆっくり過ごせるよう環境をつくっている。1. 2歳児は疲れてくるとトラブルが起きやすいので、子どもの様子を見ながら個別に隣の部屋に移動して遊ぶなどの配慮をしている。</p> <p>延長保育では子どもが楽しめるよう活動や環境を工夫している</p> <p>延長保育では普段は異なるクラスの友達との関わりが見られる。夕方の長い時間を保育園で過ごす子ども達が遊びを楽しめるよう、夕方にだけ遊べる玩具を用意したり、曜日によって玩具を変更するなどしている。また、「運動の日」を設けて、遊びに変化をつけるなど活動の工夫をしている。子どもの様子によってコーナー配置などを変えるなど、子どもが新鮮な気持ちで遊びを楽しめるよう環境を考慮し、進級時や子どもが落ち着かない時期は環境を変えずに子どもが落ち着くよう配慮する等、子どもの状況に応じた環境設定をしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子ども達が食事の準備を手伝い、異年齢の小グループで落ち着いて食事をしている</p> <p>コロナ禍が落ち着いたことから、今年度は途中から異年齢の小グループでの座席に戻し、子ども達が会話を楽しみ食事ができる環境とした。食事の準備では、子どもがテーブルの上に花を飾ったり、当番が配膳をするなど、子ども達が食事の環境づくりを手伝っている。また、小グループ形式に変更したことに伴い、保育士も一緒に食事をとることを再開し、咀嚼や食具の使い方の見本を示し子どもに食事の仕方を伝えやすい環境となった。子どもが苦手な食材や献立は試しに食べてみることを促しつつ、無理はさせずに食べる事が嫌にならないよう配慮している。</p> <p>「絵本給食」など、楽しい食事の工夫や、家庭と連携した食習慣づくりに取り組んでいる</p> <p>毎月1冊の絵本を決め、集まりの時に読み聞かせて、話に出てきた食べ物やそれにちなんだ給食を提供したり、節分の時には鬼に見立てた盛り付をする、七夕の時に星形のゼリーを提供するなど、子ども達が楽しめるよう献立の工夫をしている。区の取り組みである「早寝早起き朝ご飯」や「ベジファースト」を保育や食事に取り入れ、朝ご飯の重要性を保護者に伝えたり、食事開始時に「いただきます」の挨拶と一緒に「一口目は野菜から」を合言葉にして、家庭と連携し、健康的な食の習慣作りに取り組んでいる。</p> <p>調理や栽培を通して食に親しみ、食材に触れる体験を通して食への興味を高めている</p> <p>園庭のプランターではトマトやキュウリ、ナス、ピーマンなどの夏野菜の栽培・収穫をしている。子ども達が水やりを行い、成長の様子を観察し、収穫した野菜を給食で出してもらい食している。また、そら豆のさやむきやシタケをさく、冬瓜の切り口を見るなどの活動を行い、五感を通して旬の食材に触れ、興味を喚起している。調理保育では小さい子どもが野菜をほぐしたり年長児がナイフを使ってウインナーを切る等、年齢毎に役割分担をして調理し、食べる時には食材について知るなどの体験を通して食への興味を高めることに取り組んでいる。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが安全や健康を意識して生活できるよう、理解しやすい方法で伝えている</p> <p>新年度には毎年クラス毎に園舎内や園庭を周り、各場所での過ごし方やルールを確認したり、園庭の遊具の使い方を保育者や年長児が見本となって伝え、子ども達が安全について注意を払えるよう取り組んでいる。また、遠足に行く前には交通安全の紙芝居を見る、歯科指導がある時には虫歯予防の紙芝居を読む、感染症が流行する時期には紙芝居のほかに手洗い・うがいの仕方を個別に伝える等、適宜、安全や健康について子どもたちが意識できるよう伝えている。</p> <p>近隣の医療機関との連携を開始し、子どもの健康維持のための体制を整備している</p> <p>うめだ・あけぼの診療所の嘱託医と連携し、毎月の健診のほか、発達や感染症など専門的なアドバイスを得て、発達についての検討や健康維持に役立っている。園児の健康管理についていつでも相談できる体制を整えており、必要に応じて健康・発達の相談をして、医師の指示を得て対応している。また、近隣に開設された病院とは緊急時の受け入れ対応について連携し、医師に子育て講座を依頼するなど新たな医療機関とのつながりを構築している。そのほか、屈折検査を実施し、必要に応じて医療機関の紹介をして早期発見に役立ててもらっている。</p> <p>子どもが健康に過ごせるよう、保護者に情報を提供し注意喚起をしている</p> <p>SIDS対応では、0歳児には午睡センサーを使用し、各年齢毎に定められた間隔での午睡チェックをしている。保護者には入園時にSIDSについて周知し、家庭での仰向け寝を推奨して予防を徹底している。健康に関する情報については、毎月保健ニュースを保護者に配布し、子どもの健康維持に向けた園の取り組みや園児の健康状況などを知らせている。感染症が発生した時には罹患状況一覧表を掲示し、収束まで情報提供を継続して、保護者に向け注意喚起をしている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保育参観や個人面談で園と保護者が子どもの様子を共有している</p> <p>クラス懇談会、保育参観、個人面談を開催し、保護者との間で子どもの姿を共有している。クラス懇談会は年に2回開催し、4月は保護者同士が顔を合わせ交流する機会を設け、3月は次年度に向け保護者が見通しを持って進級できるよう配慮している。保育参観や個人面談はほぼ全員の保護者が参加している。個人面談は年度の早い時期に実施し、1年間の目標も共有している。今回の利用者アンケートでは参観や面談の日程についてもう少し柔軟に選択できることを希望する意見が上がっており、今後検討することを期待する。</p> <p>保護者の要望に耳を傾け対応に努めている</p> <p>入園前の面接や個別面談では保護者の要望を聞き取っている。また、「保育サービス在り方検討会」を開催し、保護者からの意見や要望について話し合い、対応を検討して改善策などを園だよりで周知している。登降園時間については、保護者の就労に応じて設定し、急な勤務時間の変更には早朝保育や夕方保育、スポット延長保育などで対応している。利用者アンケートの中で早退時間の決まりがあり不便さを感じる旨の声が上がっていたが、園では子どもの活動の区切りを意識した保育を行いつつ、保護者の要望も重視して柔軟な対応ができるよう努めている。</p> <p>子育て講座を開催し、保護者が子育てに関して学べる機会をつくっている</p> <p>子育て講座「すくすく」を年に2回開催し、保護者が育児について学ぶ機会を設けており、1回目はモンテッソーリ教育の話、2回目は小児科医から感染症の話や、うめだ・あけぼの学園の職員から靴選びの話など、子育てに役立つ専門的な講座を開催している。モンテッソーリ教育の話の中では日常、数、感覚、言語の4分野から1分野ずつ、実際の教具に触れてもらうなどで伝えている。また、講座の内容はDVDに記録し参加できなかった人に貸し出している。DVDの視聴も含めると40～50名ほどの参加があり、多くの保護者の学びの機会になっている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>例年行っていた地域行事を再開し卒園児と在園児の交流の場となっている</p> <p>コロナ禍のため中止していた「からしだねフェスティバル」を今年度再開した。以前と同様に中学3年生までの卒園児にはがきを送り招待し、フェスティバルの手伝いをしてもらった。また、園長と共に練習を重ねている空手クラブに所属している卒園児の演武の発表も行い、卒園した子ども達と在園児が交流する良い機会になっている。今年度は久しぶりの開催だったため地域の人々への公開はしなかったが、来年度からは以前のように地域の交流の場として開催する予定である。</p> <p>公共施設や民間団体などを活用し、子ども達はさまざまな経験ができている</p> <p>幼児クラスの子ども達は、発達支援センターうめだ・あけぼの学園の子ども達と交流保育を行い、一緒にゲームやミニ運動会を実施したり、法人が開催する「からしだねフェスティバル」で共同制作を行うなど、さまざまな友達と関わりを持ち過ごしている。また、年に1回、こども未来創造館にあるプラネタリウム観賞に出かけたり、観劇会で人形劇団に来園してもらい人形劇を観賞するなど、地域の公共施設や民間の団体などを活用し、子ども達がさまざまな人と触れ合い、たくさんの経験ができるよう機会を設けている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	地域連携や地域子育て支援等で多様なニーズや育児不安に応えることに取り組んでいる	
内容①	<p>区の民間保育園連合会での情報収集や区の幼保小連携会議、足立区医療的ケア児ネットワーク協議会に参加し、専門性からの意見や提言をしている。また、うめだ・あけぼの学園をはじめとする関係機関のネットワーク化や、法人主催の「子ども食堂」への参加、近隣の病院と連携し実施している子育て講座「すくすく」で小児科医師による講演等も実施している。園内では利用者調査や保護者との日々連絡等から要望を捉え「保育サービスあり方検討会」により、要望に対する具体的な対策と必要な改善を実施し定期的に公表している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	高い専門性をもってインクルーシブ保育(いんくる保育)を推進している	
内容②	<p>うめだ・あけぼの学園(発達支援センター)との間で行われるインテグレーション(交流保育)は40年の歴史がある取り組みであり、東京都サービス推進費自主的取組事業としての承認も受け、地域の発達支援に大きく貢献する取り組みである。この数年のコロナ禍により、多くの活動が縮小されている中で、一緒にグループ活動を実施したり、ゲームやミニ運動会を開催するなどの交流を継続しており、共同製作した作品はからしだねフェスティバルで展示もしている。現在はインクルーシブ保育と名称を変更し、共に学び共に育つ環境がつけられている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	コロナ禍で休止となっていた「からしだねフェスティバル」を4年ぶりに開催した	
内容③	<p>「からしだねフェスティバル」は、法人3園合同で長年に亘り毎年開催し、地域の人たちの多くの参加者がある一大交流行事である。在園児や卒園児、保護者、職員、地域の人たちが参加し、模擬店やバザー、園児と地域の子どものダンスなどのレクリエーションが催され、卒園児、地域の小学生たちが所属するうめだキッズ空手クラブによる演武などもある。今年度は休止明けであり卒園児と在園児および保護者のみの参加であるが、それでも100名程度が参加している等、地域交流の場であり、また、園と卒園児がつながる場となっている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども達が主体的に活動できるよう、モンテッソーリ教育を基本に人的環境や物的環境を整えている
	内容	保育室の棚には子ども達が自分で選びやすいようきれいに教具が並んでおり、幼児クラスの子供達は使い終わったら元に戻すことや物を大切に使うなどの姿勢が身に付いている。また、刺繍や機織の作品などは大人顔負けの作品が棚に並べられている。これは、リング差しから紐通し、ひも通しから縫いさし、縫いさしから刺繍へと、発達に応じて0歳児から遊びの積み重ねた結果であり、0歳から5歳までのつながりのある遊びが深く考慮されている。また、子ども一人ひとりが集中して遊び込める環境がつけられている。
2	タイトル	縦割り保育を実践する中で、同年齢児の横割りの保育にも注力して取り組み、発達に合わせた保育がおこなわれている
	内容	縦割り保育を実践する中、4・5歳児の体操教室、3～5歳児の英語教室などで所属クラス以外の同年齢児との関わりが持てるようにしている。また、年齢別の活動も実施しており、異年齢の指導計画のほかに年齢別指導計画を作成し、特に就学を迎えた5歳児には、卒園までに身に付け、学んでおきたいことについて計画的に取り組んでいる。キリスト教を基調とした保育の中での宗教の時間のほか、モンテッソーリ教育の文化の活動では地理(宇宙や地球、大陸について等)や外国の諸文化の説明をしている。年長児以外も年齢別で簡単なゲームをおこなっている。
3	タイトル	発達支援の高い専門性を活かして、地域において発達支援のネットワークづくりを推進している
	内容	実施しているインクルーシブ保育は地域福祉のモデルケースとなっており、発達支援の高い専門性を持ち、地域との連携がされている。園内に発達支援委員会を設け、うめだ・あけぼの学園(発達支援センター)の専門職員と連携して、発達の遅れや気になる子への発達検査等を実施し、必要な園児には専門機関を紹介する等の連携をしている。うめだ・あけぼの学園との間の「AKネット」(発達支援が必要な子どもを取りこぼさず適切な機関につなぐネットワーク)では、各機関につなぐためのフローを作成して発達支援のネットワークづくりを推進している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	人材の採用と定着・育成に向け、問題解決のための施策を検討し、実施していくことを期待したい
	内容	保育士不足は保育業界では恒常的な状況でもあり、園としても人員確保と人材育成は常にある課題と捉えている。職員が保育を楽しみチャレンジしようというモチベーションが上がるような取り組みを行なっていく意向もあるため、着実に実行し定着から育成につなげて行くことを期待したい。また、採用活動に力を入れているところであるため、継続した取り組みを期待するとともに、退職を防ぐ職場環境づくりなども、引き続き注力していくことが期待される。
2	タイトル	モンテッソーリ教育園として独自の人材育成計画とキャリアパス制度を構築する事を検討している
	内容	研修についてはキャリアアップ研修をキャリアパスに組み込み、キャリアアップ研修との連動性を高めた研修計画が作成されており、今後は園の保育の軸であるモンテッソーリ教育についてもキャリアパスに組み入れて人材育成の体系を構築していく意向がある。ぜひ実現させ、モンテッソーリ教育や必要な保育のスキルをキャリアパスにリンクさせることで、うめだ「子供の家」の教育・研修体系とキャリアパスが確立されることを期待したい。
3	タイトル	保護者アンケートの結果を改善・向上に活かしていくことが期待される、
	内容	今回の保護者アンケートでは、日常的に職員と会話をする機会や、公園などの園外で活動する機会に関する意見など、さまざまな意見が得られている。保護者との日常におけるコミュニケーションや、毎日の子どもや保育の様子を保護者に伝える方法なども継続して検討していくことを望みたい。また、公園での活動についてはコロナ禍以降、公園は園庭のない保育園に譲るといった思いもあるとのことだったので、改善策を検討し工夫をしていくことも期待したい。

